

四半期報告書

(第58期第1四半期)

自 平成23年4月1日

至 平成23年6月30日

株式会社 **ジオディノス**

札幌市中央区南3条西1丁目8番地

目 次

頁

表 紙

第一部 企業情報	1
第1 企業の概況	1
1 主要な経営指標等の推移	1
2 事業の内容	1
第2 事業の状況	2
1 事業等のリスク	2
2 経営上の重要な契約等	2
3 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析	2
第3 提出会社の状況	4
1 株式等の状況	4
(1) 株式の総数等	4
(2) 新株予約権等の状況	4
(3) 行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等	4
(4) ライツプランの内容	4
(5) 発行済株式総数、資本金等の推移	4
(6) 大株主の状況	4
(7) 議決権の状況	5
2 役員の状況	5
第4 経理の状況	6
1 四半期財務諸表	7
(1) 四半期貸借対照表	7
(2) 四半期損益計算書	9
2 その他	13
第二部 提出会社の保証会社等の情報	14

[四半期レビュー報告書]

[確認書]

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	北海道財務局長
【提出日】	平成23年8月15日
【四半期会計期間】	第58期第1四半期（自平成23年4月1日至平成23年6月30日）
【会社名】	株式会社ゲオディノス
【英訳名】	GEO DINOS Co., Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 清水 松生
【本店の所在の場所】	札幌市中央区南3条西1丁目8番地
【電話番号】	011-241-3951
【事務連絡者氏名】	常務取締役管理本部長 吉住 実
【最寄りの連絡場所】	札幌市中央区南3条西1丁目8番地
【電話番号】	011-241-3951
【事務連絡者氏名】	常務取締役管理本部長 吉住 実
【縦覧に供する場所】	株式会社大阪証券取引所 (大阪市中央区北浜一丁目8番16号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第57期 第1四半期 累計期間	第58期 第1四半期 累計期間	第57期
会計期間	自平成22年 4月1日 至平成22年 6月30日	自平成23年 4月1日 至平成23年 6月30日	自平成22年 4月1日 至平成23年 3月31日
売上高（千円）	2,077,977	2,018,266	8,663,734
経常利益又は経常損失（△）（千円）	△43,675	△31,162	160,671
当期純利益又は四半期純損失（△） （千円）	△83,458	△61,562	43,361
持分法を適用した場合の投資利益 （千円）	—	—	—
資本金（千円）	948,775	948,775	948,775
発行済株式総数（株）	4,303,500	4,303,500	4,303,500
純資産額（千円）	2,303,269	2,369,821	2,426,533
総資産額（千円）	10,369,294	10,401,472	10,246,168
1株当たり当期純利益金額又は1株当 たり四半期純損失金額（△）（円）	△19.48	△14.46	10.13
潜在株式調整後1株当たり四半期 （当期）純利益金額（円）	—	—	—
1株当たり配当額（円）	—	—	—
自己資本比率（％）	22.2	22.8	23.7

- （注） 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりませんので、「連結会計年度に係る主要な経営指標等の推移」については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 第57期第1四半期累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
4. 第57期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。
5. 第58期第1四半期累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第1四半期累計期間において、当社が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。なお、報告セグメントの区分を変更しております。詳細は、「第4 経理の状況 1 四半期財務諸表 注記事項（セグメント情報等）セグメント情報」の「Ⅱ. 2. 報告セグメントの変更等に関する事項」をご参照ください。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第1四半期累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第1四半期会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 業績の状況

当第1四半期累計期間におけるわが国経済は、上向きの動きがみられるものの、東日本大震災の影響等により依然として厳しい状況のまま推移しました。具体的には、サプライチェーンの立て直しが進み、生産活動が回復していくのに伴い、海外経済の緩やかな回復や各種政策効果などを背景に、景気が持ち直していくことが期待されてはおりますが、電力供給の制約や原子力災害及び原油高の影響に加え、デフレの影響や失業率が依然として厳しい状況にあることなどから、景気は弱い動きのまま推移しました。

このような状況のもと、GAME運営部において、中規模ゲーム施設1店舗の新規オープンがありました。ゲーム機種及びプライズ機における景品のヒットが少なかったこと、ディノス施設運営部のシネマにおいて前期よりヒット作品が少なかったことなどにより、当第1四半期累計期間の売上高は20億18百万円（前年同四半期比2.9%減）となりました。利益においては、当期及び前期に3ヶ所のディノス施設において、一部の不採算スペースをカラオケ店もしくは事務所等として他社に賃貸し収益改善を図ったこと、省エネを目的とした設備投資により光熱費が前期より減少したことなどにより、営業利益は6百万円（前年同四半期は営業損失12百万円）、経常損失は31百万円（前年同四半期は経常損失43百万円）、四半期純損失は61百万円（前年同四半期は四半期純損失83百万円）となりました。

当第1四半期累計期間における営業実績をセグメント別に示すと次のとおりであります。

セグメントの名称	当第1四半期累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)	前年同四半期比 (%)
GAME運営部 (千円)	844,322	△2.8
フィットネス運営部 (千円)	506,856	2.1
ボウリング運営部 (千円)	284,032	△4.4
カフェ運営部 (千円)	166,796	△5.9
ディノス施設運営部 (千円)	216,257	△9.5
(シネマ) (千円)	(170,293)	(△15.5)
(その他) (千円)	(45,964)	(22.5)
合計 (千円)	2,018,266	△2.9

(注) 1. 上記の金額には消費税等は含まれておりません。

2. 平成23年6月1日付の組織変更に伴い、ディノス事業部のボウリング事業をボウリング運営部に、同じくシネマ事業及び土地・建物の賃貸収入等その他をディノス施設運営部に区分及び名称を変更しております。また、ディノス事業部の実質的にボウリング場の付帯施設的位置づけであったF A事業1店舗を除きボウリング運営部に変更しており、独立店舗的性格の強い1店舗をカフェ運営部に変更しております。前年同四半期比については、当該組織変更を反映した前年同四半期の数値を用いております。

3. ディノス施設運営部の(その他)は、土地・建物の賃貸収入等の売上であります。

4. ディノス施設運営部のセグメント内訳は、内部管理上採用している区分によっております。

(GAME運営部)

GAME運営部につきましては、ゲオパークじょいくる一ず店（平成23年4月）の新規オープンがありました。ゲーム機種及びプライズ機における景品のヒットが少なかったことなどにより、売上高は8億44百万円（前年同四半期比2.8%減）となりました。

(フィットネス運営部)

フィットネス運営部につきましては、ゲオフィットネス国立（平成23年5月グランドオープン）がオープンし、店舗数が増えたことなどにより、売上高は5億6百万円（同2.1%増）となりました。

(ボウリング運営部)

ボウリング運営部につきましては、前半東日本大震災の発生に伴う自粛等の影響などにより、多くの予約団体がキャンセルになったこと、後半キャンセルになった予約団体が戻ってはきたものの、前半の自粛等による落ち込みが大きかったことなどにより、売上高は2億84百万円(同4.4%減)となりました。

(カフェ運営部)

カフェ運営部につきましては、1店舗が閉店(平成22年11月)したことなどにより、売上高は1億66百万円(同5.9%減)となりました。

(ディノス施設運営部)

ディノス施設運営部につきましては、その他において、当期及び前期にディノス札幌白石など3施設において一部スペースをカラオケ店もしくは事務所等として他社に賃貸したことにより、不動産賃貸収入が増加しましたが、シネマにおいて、ヒット作品が少なかったこと、ディノスシネマ札幌白石を閉館(平成23年5月)したことなどにより、売上高は2億16百万円(同9.5%減)となりました。

(2) 財政状態の分析

(資産、負債及び純資産の状況)

当第1四半期会計期間末の総資産は104億1百万円となり、前事業年度末に比べ1億55百万円増加しました。これは主に、現金及び預金等流動資産の増加(前期末比1億81百万円増)があったことによるものであります。

負債については、80億31百万円となり、前事業年度末に比べ2億12百万円増加しました。これは主に、長期借入金等固定負債の減少(同92百万円減)がありましたが、短期借入金等流動負債の増加(同3億4百万円増)があったことによるものであります。

純資産については、23億69百万円となり、前事業年度末に比べ56百万円減少しました。これは主に、利益剰余金の減少(同61百万円減)があったことによるものであります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期累計期間において、当社が対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

該当事項はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	14,000,000
計	14,000,000

②【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成23年6月30日)	提出日現在発行数(株) (平成23年8月15日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	4,303,500	4,303,500	大阪証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数100株
計	4,303,500	4,303,500	—	—

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
平成23年4月1日～ 平成23年6月30日	—	4,303,500	—	948,775	—	1,128,995

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成23年3月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

① 【発行済株式】

平成23年3月31日現在

区分	株式数（株）	議決権の数（個）	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式（自己株式等）	—	—	—
議決権制限株式（その他）	—	—	—
完全議決権株式（自己株式等）	普通株式 45,000	—	—
完全議決権株式（その他）	普通株式 4,258,000	42,580	—
単元未満株式	普通株式 500	—	—
発行済株式総数	4,303,500	—	—
総株主の議決権	—	42,580	—

② 【自己株式等】

平成23年3月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数（株）	他人名義所有株式数（株）	所有株式数の合計（株）	発行済株式総数に対する所有株式数の割合（%）
株式会社ゲオディノス	札幌市中央区南3条西1丁目8番地	45,000	—	45,000	1.05
計	—	45,000	—	45,000	1.05

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1. 四半期財務諸表の作成方法について

当社の四半期財務諸表は、「四半期財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第63号。）に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、当第1四半期会計期間（平成23年4月1日から平成23年6月30日まで）及び当第1四半期累計期間（平成23年4月1日から平成23年6月30日まで）に係る四半期財務諸表について瑞輝監査法人による四半期レビューを受けております。

3. 四半期連結財務諸表について

当社は、子会社がありませんので、四半期連結財務諸表を作成しておりません。

1 【四半期財務諸表】
 (1) 【四半期貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当第1四半期会計期間 (平成23年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	767,655	948,528
売掛金	110,936	94,259
商品及び製品	28,173	34,463
原材料及び貯蔵品	73,347	84,123
その他	115,766	116,257
貸倒引当金	△635	△500
流動資産合計	1,095,244	1,277,132
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	3,623,455	3,612,378
アミューズメント機器（純額）	501,667	476,567
土地	2,699,860	2,699,860
その他（純額）	706,466	709,140
有形固定資産合計	7,531,449	7,497,946
無形固定資産		
投資その他の資産		
差入保証金	1,205,942	1,209,557
その他	369,613	369,819
投資その他の資産合計	1,575,556	1,579,377
固定資産合計	9,138,045	9,106,798
繰延資産	12,879	17,540
資産合計	10,246,168	10,401,472
負債の部		
流動負債		
買掛金	168,420	174,894
短期借入金	—	400,000
1年内償還予定の社債	155,000	168,000
1年内返済予定の長期借入金	1,136,763	1,115,223
1年内返済予定の長期未払金	324,943	323,668
未払法人税等	25,175	11,945
賞与引当金	38,994	14,991
ポイント引当金	4,300	4,400
店舗閉鎖損失引当金	3,804	1,100
その他	919,091	866,503
流動負債合計	2,776,492	3,080,726
固定負債		
社債	530,000	672,000
長期借入金	2,665,823	2,493,739
長期未払金	1,022,824	967,818
退職給付引当金	169,261	171,893
資産除去債務	112,698	113,318
その他	542,536	532,155
固定負債合計	5,043,143	4,950,924
負債合計	7,819,635	8,031,651

(単位：千円)

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当第1四半期会計期間 (平成23年6月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	948,775	948,775
資本剰余金	1,128,995	1,128,995
利益剰余金	357,745	296,182
自己株式	△20,983	△20,987
株主資本合計	2,414,532	2,352,965
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	10,228	14,342
評価・換算差額等合計	10,228	14,342
新株予約権	1,773	2,513
純資産合計	2,426,533	2,369,821
負債純資産合計	10,246,168	10,401,472

(2) 【四半期損益計算書】
【第1四半期累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)	当第1四半期累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)
売上高	2,077,977	2,018,266
売上原価	463,961	430,160
売上総利益	1,614,016	1,588,105
販売費及び一般管理費		
給料	391,744	398,727
賞与引当金繰入額	9,685	14,991
退職給付費用	5,868	5,039
水道光熱費	165,850	154,407
租税公課	31,035	21,115
地代家賃	305,164	317,041
減価償却費	178,618	171,883
修繕維持費	108,985	105,590
その他	429,574	392,528
販売費及び一般管理費合計	1,626,528	1,581,325
営業利益又は営業損失(△)	△12,511	6,780
営業外収益		
受取利息	894	965
受取配当金	1,082	838
アミューズメント機器売却益	1,111	—
協賛金収入	1,766	2,538
その他	2,121	2,028
営業外収益合計	6,977	6,370
営業外費用		
支払利息	34,241	32,311
アミューズメント機器処分損	2,771	—
休止固定資産関係費用	—	9,219
その他	1,128	2,781
営業外費用合計	38,141	44,313
経常損失(△)	△43,675	△31,162
特別利益		
固定資産売却益	27	—
ポイント引当金戻入額	750	—
特別利益合計	777	—
特別損失		
固定資産売却損	3,211	—
固定資産除却損	1,932	108
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	20,454	—
リース解約損	741	—
特別損失合計	26,339	108
税引前四半期純損失(△)	△69,237	△31,271
法人税、住民税及び事業税	7,953	8,068
法人税等調整額	6,267	22,222
法人税等合計	14,220	30,291
四半期純損失(△)	△83,458	△61,562

【追加情報】

当第1四半期累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年6月30日)
(会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用) 当第1四半期会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日)を適用しております。

【注記事項】

(四半期キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期累計期間に係る四半期キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第1四半期累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年6月30日)	当第1四半期累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年6月30日)
減価償却費	181,442千円	175,701千円

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期累計期間(自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期損 益計算書 計上額 (注)3
	ディノス 事業部	GAME 事業部	フィット ネス事業部	カフェ 事業部	計				
売上高									
外部顧客への 売上高	506,650	868,263	496,249	169,292	2,040,457	37,520	2,077,977	-	2,077,977
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	-	-	-	-	-	-	-	-	-
計	506,650	868,263	496,249	169,292	2,040,457	37,520	2,077,977	-	2,077,977
セグメント利益 又は損失(△)	△25,605	73,680	22,356	12,791	83,223	22,199	105,422	△117,933	△12,511

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産事業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△117,933千円は、各報告セグメントに配賦していない全社費用が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

Ⅱ 当第1四半期累計期間（自平成23年4月1日 至平成23年6月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント						調整額 (注) 1	四半期損益 計算書計上 額 (注) 2
	GAME 運営部	フィットネ ス運営部	ボウリング 運営部	カフェ 運営部	ディオス 施設運営部	計		
売上高								
外部顧客への売上高	844,322	506,856	284,032	166,796	216,257	2,018,266	—	2,018,266
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	—	—	—	—	—	—	—	—
計	844,322	506,856	284,032	166,796	216,257	2,018,266	—	2,018,266
セグメント利益又は 損失(△)	105,876	7,699	△8,547	12,662	△24,026	93,665	△86,885	6,780

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△86,885千円は、各報告セグメントに配賦していない全社費用が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

当社は、従来「ディオス事業部」・「GAME事業部」・「フィットネス事業部」・「カフェ事業部」の4つを報告セグメントとしておりましたが、前事業年度にて、「その他」に含まれる不動産事業等の重要性が増加したため、「ディオス事業部」・「GAME事業部」・「フィットネス事業部」・「カフェ事業部」・「その他事業」の5つを報告セグメントといたしました。また、平成23年6月1日付の収益力強化を目的とした組織変更に伴い、「GAME運営部」・「フィットネス運営部」・「ボウリング運営部」・「カフェ運営部」・「ディオス施設運営部」の5つの報告セグメントに変更しております。

当該組織変更を反映した前第1四半期累計期間のセグメント情報は、以下のとおりであります。

（単位：千円）

	報告セグメント						調整額 (注) 1	四半期損益 計算書計上 額 (注) 2
	GAME 運営部	フィットネ ス運営部	ボウリング 運営部	カフェ 運営部	ディオス 施設運営部	計		
売上高								
外部顧客への売上高	868,263	496,249	297,193	177,336	238,933	2,077,977	—	2,077,977
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	—	—	—	—	—	—	—	—
計	866,263	496,249	297,193	177,336	238,933	2,077,977	—	2,077,977
セグメント利益又は 損失(△)	83,928	22,356	10,251	7,014	△16,043	107,507	△120,019	△12,511

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△120,019千円は、各報告セグメントに配賦していない全社費用が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第1四半期累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)	当第1四半期累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)
1株当たり四半期純損失金額	△19円48銭	△14円46銭
(算定上の基礎)		
四半期純損失金額(千円)	△83,458	△61,562
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る四半期純損失金額(千円)	△83,458	△61,562
普通株式の期中平均株式数(株)	4,283,449	4,258,412

- (注) 1. 前第1四半期累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
2. 当第1四半期累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成23年8月12日

株式会社ゲオディノス

取締役会 御中

瑞輝監査法人

指定社員
業務執行社員 公認会計士 大浦 崇志 印

指定社員
業務執行社員 公認会計士 瀬戸口 明慶 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社ゲオディノスの平成23年4月1日から平成24年3月31日までの第58期事業年度の第1四半期会計期間(平成23年4月1日から平成23年6月30日まで)及び第1四半期累計期間(平成23年4月1日から平成23年6月30日まで)に係る四半期財務諸表、すなわち、四半期貸借対照表、四半期損益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して四半期財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社ゲオディノスの平成23年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. 四半期財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。

【表紙】

【提出書類】	確認書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の8第1項
【提出先】	北海道財務局長
【提出日】	平成23年8月15日
【会社名】	株式会社ゲオディノス
【英訳名】	GEO DINOS Co., Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 清水 松生
【最高財務責任者の役職氏名】	該当事項はありません。
【本店の所在の場所】	札幌市中央区南3条西1丁目8番地
【縦覧に供する場所】	株式会社大阪証券取引所 (大阪市中央区北浜一丁目8番16号)

1 【四半期報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当社代表取締役社長清水松生は、当社の第58期第1四半期（自平成23年4月1日 至平成23年6月30日）の四半期報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認しました。

2 【特記事項】

特記すべき事項はありません。